

## 2023年8月 東北（岩手、青森、秋田）の旅

### 8月1日（火）一日目

これから、5年ぶりに東北の旅に出る。21時過ぎに南大沢の自宅を2台目の軽Nボックスで出発。今回は、あき子さんも一緒である。

一泊は、車で寝るので、長座布団を二枚と暑い座布団二枚を用意しての旅になった。そして大型クーラーボックスに氷のペットボトル二本を入れている。あとは、カメラ、着替えなど。

圏央道あきる野インターから東北道へ。夜の走りには大型トラックが多いので、注意が必要。

高速の目的地は、東北道の平泉スマート IC である。直行すれば、約4時間50分で着く。走行距離は458.6キロだ。

### 8月2日（水）二日目

0時になった。休むことなく、3時間近く走った。那須高原SAに入り、仮眠することにする。4時に起きて出発する。途中、菅生PAで給油。ちょうどよくエネオスGSだったので、ガソリンカードが使えた。今のガソリンの高騰下では、カードの割引が重要である。

6時40分に長者原SAに到着。ここで朝食をとる。夏休みとあって、子供連れも含めて、混雑している。ここから、平泉スマートICまでは、もうすぐだ。平泉スマートICを出たのは、8時10分頃。陽ざしはすでに暑い。

#### 平泉中尊寺 東北の夏は暑い

8時20分に平泉中尊寺第1駐車場へ着く。拝観者の車は、1、2台のようで、まだガラガラである。拝観ができるのは、8時半からだ。拝観料800円、駐車料400円。駐車場からすぐの表参道を徒歩で登る。月見坂というが、杉の大木が両脇にあり、日差しは入って来ず、暑さが和らぐ。だから、月は見えないのではないかと。坂は、結構きつい、長くはない。坂を上りきると拝観券販売所があり、そこで、拝観券を購入し、中尊寺

金色堂を見学する。金色堂の中は、写真撮影禁止。中は、暗く金色堂をライトアップしている。時代が経っているので、金色の色はあせているとはいえ、金色がやはりまばゆく目に入る。金色堂は、風雪をしのぐために、覆い堂に覆われている。

10時に中尊寺を出発。一層暑くなる。盛岡もすでに34度になっている。東北も夏は暑い。

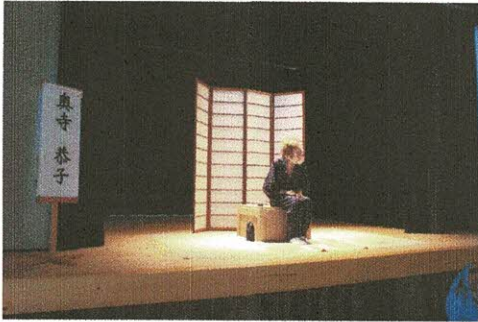
昼食は、遠野に近い、道の駅遠野風の丘でとる。煮魚定食1300円。小ダイの煮魚であった。濃い味の煮魚で、暑い日に食べるのはちょうどよい味加減であった。ここから、遠野までは10分くらい。

12時50分に遠野・とおの物語の館に着く。13時から地元の話し手・語り部が昔話を20分間話す。遠野座というそうだ。遠野に受け継がれている昔話をする。話し手は、おばあちゃん、遠野の方言で話すので、少し聞き取りにくい。「むがし、あつたずもな」で話が始まり、「どんどはれ」で終わる。

有名なのは、座敷わらし、カップ、雪女などだが、今回は、カップが馬にいたずらする話であった。遠野を有名にしたのは、民俗学者の柳田國男であるが、柳田に話を伝えたのは、地元の小説家の佐々木喜



金色堂を覆っていた古い覆い堂



おばあちゃんから聞く遠野物語

善という人だ。この人がいなければ、柳田國男の遠野物語はなかったようだ。

今日の宿は、盛岡市内、駅近くの「天然温泉りんどうの湯スーパーホテル盛岡」(朝食、温泉付き、一部屋1万6300円)という。名前はこうだが、ビジネスホテルである。ヌルヌルのお湯で温泉に間違いないが、風呂は一か所しかなく、女性と男性で時間割がある。入りたいときに入れないと妻は、不満であった。経費削減の経営戦略のようだが、客にとっては良くない。

少し、汗を引かせて、盛岡市内、駅前で夕食。盛岡出身の友人に、盛岡駅前の「ぴよんぴよん舎」が良いと聞いていたので、迷わずそこにする。そこで冷麺と焼き肉セットを注文。美味であった。店は大きく、満席のようのにぎわっていた。

## 8月3日(木) 三日目

7時過ぎにホテルで朝食。妻は、朝風呂上がり。まだ、すいていたが、食事が終わるところから、混みだした。

8時過ぎにホテルを出発。8時20分に盛岡ICから青森に向かう。距離164.7キロ、3420円、2時間の行程である。

### 穏やかな暮らしぶりが垣間見える三内丸山遺跡

10時に津軽PAで休憩。10時35分に青森・三内丸山遺跡に着く。すでに外気は35度くらいか。遺跡の見学に入るが直射で暑い。

時遊トンネル→南盛土→復元掘立柱建物→子どもの墓→大型掘立柱建物跡→大型掘立柱建物(復元)→復元大型住居→さんまるミュージアムの順で見学。この遺跡で縄文時代の暮らしぶりがよくわかる。特に、戦さがまだなかった時代、人々の温厚さが顔に現れているようだ。あくまでも復元によるものだが感じる。

12時45分に青森市内の臨時駐車場へ向かう。ねぶた祭期間中に設けられるものだ。料金は1000円/1回であった。昨年までは、500円だった。諸物価高騰を感じる。車をおいて、12時50分に駅方向に向けて出発。暑さは、強まっているようだ。



三内丸山遺跡の復元建物

### のっけ井は自分好みの海鮮丼がくれる

30分くらい歩いて、青森駅近くの青森魚菜センターで遅い昼食。午後2時ころになっていた。妻は、暑さでふらふらのようだ。ここは、魚介類の販売所である。そこで、酢飯を用意してくれて、店を回って、自分好みのネタを載せて海鮮丼を作って食べる。のっけ井といい、2000円だ。味噌汁も付く。妻の分も店を回って作る。妻は、ウニが好きなので、ウニ中心に。魚も貝も豊富にある。そこで下ろしているの、



新鮮だ。妻は、海鮮丼を食べて、元気が出たと言っていた。

### ねぶたもお囃子も太鼓も迫力満点

食事をして、元気が出たところで、JR 青森駅に向かう。目指すは、「ねぶたの家 ワ・ラッセ」である。そこで涼めればよいと考える。しかし、ねぶた祭で観光客はいっぱいである。「ワ・ラッセ」を見学する。中は、人が多いが涼しい。ちょうど、お囃子や太鼓の実演が始まる場所であった。始まってみると、屋内でもあるせいか、お囃子も太鼓のボリュームもすごい。腹に響く。津軽三味線がビンビン響くのと同じ感覚である。太鼓も図抜けて大きい。



ワ・ラッセで展示されているねぶた

「ワ・ラッセ」には、以前に作られた名のあるねぶた師によるねぶたが光に照らされて展示されていた。四方からみて迫力満点。

遅い昼食だったので、青森市内では夕食は取らず、ねぶた祭の見える協働社ビル前交差点に行く。

1 時間前だったがすでに道路沿いは、見物客がいっぱい。交差点なので、角で見ることにした。

ねぶたは午後 7 時から、周りが暗くなってから動き出す。ねぶたが勢よく通ってきたら、近くによって見た。動きのあるねぶたは、また迫力が違っていた。ねぶたの周りで踊る

跳人は、数が多い。青森市内の人が総出で出ている感じ。

今日の宿は青森市内から約 1 時間半かかるので、すべてのねぶたは見ずに会場を後にした。

20 時に青森市内を出発。ナビを入れると予定のコースと違う。時間がないのでそのまま出発。案内されたコースは、青森みちのく有料道路を通過して、十和田市まで、約 60 キロ、約 1 時間半である。有料道路で、夜だったので、渋滞もなく、予定より 10 分早く、21 時 20 分に十和田市の「天然温泉奥入瀬の湯 スーパーホテル十和田天然温泉」に着いた。ここも盛岡のホテルと同じ系列のホテル。風呂は一か所しかなく、男女入れ替え制。温泉は、少し熱めのヌルヌルの温泉だ。盛岡のホテルと同じ温泉のようだった。

夕食を食べてなかった。ホテルの近くを探したが松屋しか開いてなかったのでそこに入る。24 時間営業。妻は、松屋に初めて入るとのこと。

今日は、遺跡で歩き、青森市内も歩いたので、疲れている。風呂に入ってからすぐに寝た。

### 8 月 4 日（金）四日目

7 時にホテルで朝食。すでに混んでいる。今日の行程はゆっくりなので、8 時 50 分にホテルを出発。もうすでに暑い。



ミスねぶたも練りに参加





酸ヶ湯温泉千人風呂の入口

### 酸ヶ湯温泉は混浴 マナーの悪い客もいる

9時55分に青森で有名な酸ヶ湯温泉に着く。ここは、混浴の千人風呂が有名だ。本当に千人入れるかはわからないが、湯舟は広い。群馬県にある混浴・法師温泉の風呂も大きい、どちらが大きいかはわからない。私は、2度目。先に入浴していると、妻が入ってきたようだ。男の入浴者は、10人くらい。妻は、見知らぬ人と話すのは得意。早速、中年のおばさんと一緒に入ってくる。妻以外は、湯あみ着を着ている。妻はタオルのみ。湯につかると、湯が白いので、見えない。硫

黄泉だ。混浴といっても今は仕切りが半分くらいついている。マナーの悪い男客がいたからのようだ。四分六分の湯船は女性用ともつながっている。その湯舟の真ん中より、男性は女性用のほうに行ってもいいけないとの注意書き。今回も一人の男性が女性の湯船が見えるぎりぎりの位置で陣取っていた。それに妻は憤慨していた。

男性が入る側には、熱湯がある。とはいっても四分六分の湯よりぬるく、とても入りやすい。

そこへ、妻たちが入ってきた。男たちの視線が集まっているようだ。私は、熱湯から少し離れた打たせ湯前から見ていた。妻も私を確認していたようだ。

私は、千人風呂からあがり、玉の湯という内湯（男女別）に初めて入った。とても小さい風呂で、少し熱く感じる風呂であった。

11時30分に酸ヶ湯温泉を出発。12時過ぎに奥入瀬溪流に入る。ここは、十和田八幡平国立公園だ。石ヶ戸の瀬を少し歩く。水の流れも豊富で木々も生き茂り、暑さがしのげる。奥入瀬溪流は、ほとんどが、道路との高低差は少なく、すぐに溪流に入れるのが特徴。だから溪流で溪谷ではない。

奥入瀬溪流から十和田湖が一望できる発荷峠第1展望休憩所で一休み。遠くまで十和田湖が一望できた。

14時に道の駅おおゆで昼食。今日の宿泊は、山の中の温泉なので、途中の鹿角にある「いとく鹿角ショッピングセンター」で夕食の買い物をする。刺身は、ソイという魚にした。北国に多い白身魚である。少し甘みのある淡泊な味わいである。その他、7品くらい入った弁当。揚げ出し豆腐などを購入。



奥入瀬溪流の石ヶ戸の瀬

### 玉川温泉は湯治場であった 強酸性の温泉だから要注意だがいい湯だ

16時40分に玉川温泉に着く。ここは、朝食付きで一人6000円超え。部屋は、6畳一間の自炊棟にある。昔は湯治場だった。今は、改修されて夕食付でも泊まれる。部屋は2階で、直近に流れの早い川が流れていて、音がうるさいほどだった。妻は、夜、この川の水音が気になったという。

食事前に入浴。中に人がいないときに撮った写真で見ると風情のある温泉である。温泉は、強酸性である。宿の人から言われたのは、肌の弱い人は、100%の源泉に入らないほうが良いと、また、風呂の

中で肌をこすらないことだという。

そう言われたことから、妻は、100%源泉には入らなかったという。他には、源泉50%、温めの源泉50%、箱湯、蒸気湯、打たせ湯、寝湯がある。

私は、まず源泉100%の湯に入った。ゆっくりと入った。熱くはないが、ピリピリする。しばらく動かず。さすがに温泉だ。リラックスしてくる。次に、源泉50%の湯に入るが、ここではほとんどピリピリしない。ゆっくりつかる、いい湯だ。温湯源泉50%の湯にもつかる。ここはいつまでも入っている。

妻は、100%源泉には入らなかったようだが、今回の旅行では一番良い温泉だと言っている。

あとは岩盤浴がおすすめのような。自前の服とゴザ持参でないと入れないので、今回はパス。

風呂上がりに、自炊設備が整っている調理場で食事を作り、隣のダイニングで食事をする。とても良い。ここでは、長い期間宿拍すると宿代は安くなるようだ。

18時30分から夕食。ゆっくりと楽しむ。そして、疲れているようで早めに寝ることにする。この自炊棟は、布団などは自分で敷くのである。

山の中なので、夜は、気温が下がる。ここには、テレビもクーラーもない。扇風機があるのみである。ただ、自炊しやすいうように、冷蔵庫は、中型が備えてある。

## 8月5日（土）五日目

7時に朝食。食堂に行く。すでに多くの人が並んでいる。バイキング形式。普通の温泉旅館と同等以上の品ぞろえである。手作り豆腐があったり、海の幸、山の幸もある。

隣の新玉川温泉に駐車場があるので、そこまで、宿のマイクロバスで送ってもらう。8時50分に新玉川温泉を出発。今日は、新潟の実家に行く。距離にして、約300キロ以上。

10時に角館。角館の武家屋敷町をドライブ。風情のある街並み。観光客も多い。

10時10分に道の駅協和で休憩。協和ICから日本海東北道を南下して大曲ICで下り、日本海側の由利本荘に向かう。

### 日本海を見ながら走る

13時、道の駅おうちで昼食。由利本荘→象潟→酒田→鶴岡→あつみ温泉ICの行程で進む。日本海を見ながら走れる区間だ。夕方走ると夕陽がまばゆく景色もよい。海の色は緑がかったきれいで透き通っている。

15時40分にあつみ温泉ICを出て、新潟県の村上に向かう。国道7号線を南下し、新潟空港近くの実家に着く。玉川温泉を出て約9時間かかり着いた。

着いて、少し休み、母と弟を伴い、外食をする。母は、塩ラーメンを注文。まだ、まだ食べれるようだ。

心臓と腎臓に病気を持つ母だが、見た目元気であった。ただ、杖をついても長くはもう歩けない。時々発作が起き、病院に行かなければならないという。今年の10月で90歳になる。父は64歳で肺がんでなくなった。それから弟と二人暮らしである。弟が左腕を手術して仕事を辞めることになってから、毎日一緒に暮らしているので安心している。弟には感謝だ。



玉川温泉の広い浴槽



## 8月6日（日）六日目

朝食では、母がポテトサラダを作ってくれた。まだ、料理はできるようだ。

8時45分に新潟の実家を出発。自宅まで直行すれば約4時間かかる。

9時5分に「万代島鮮魚センター」に寄って買い物。ここは海産物など豊富。新潟名物の笹団子を買う。あと、鮭、アナゴ、一夜干しのスルメイカが安かったので買った。クーラーボックスを持って行っているの、そこに氷を入れておくと冷蔵庫になるから、生の魚でも大丈夫である。

関越自動車道から圏央道を通って南大沢の自宅に着いたのは、16時である。東京もやはり暑い。温暖化を感じる。

（小林 秀治）



万代島鮮魚センター